



No. 139 (令和3年11月1日)

おもな内容

随想	1
研修講座寸描	2~5
出前講座寸描	6
心に残る授業その84	7
ICT実技研修講座の紹介	7
研究室だより	8・9
教育講演会のお知らせ	9
各種お知らせ (iPad貸出・Webサイト・資料室)	10

随想 「森の恵み」



上川教育研修センター

副所長 伊東 義晃

昔から西洋は「石の文化」、日本は「木の文化」と言われてきました。このような文化のもとで生活してきた私たちは、DNA的にも、木への親しみや愛着があるのではないのでしょうか。そして、特に私は、その傾向が強いと自負しています。

母方の実家が建具屋でしたので、小学生ぐらいまでは木っ端で遊び道具を作ったり、建具職人の作業を夢中になって眺めたりと、木を身近に感じながら過ごしました。また、大学では木材加工を専攻することになり、その上、中学校の技術・家庭科教師になりました。ここまで書きますと、「その傾向」の強さについて理解していただけたかと思えます。少し大げさな言い方になりますが、生まれてからの六十年程、木とともに人生を歩んできたといっても過言ではありません。

さて、こんな私にとりまして、大変気になっていことは、日本の森の現状が深刻であることです。
日本は、国土の七〇%が森林で占められる森の国です。そのため、昔から日本人は、森の恵みである木を使うことに長けており、木を無駄なく活かすことで独

自の文化を生み出してきました。しかし、戦後の高度成長期を迎え、都市的なライフスタイルが主流になると、林業が衰退し山村に住む人も減りました。利用価値がなくなっていく森は、手入れされないまま放置され、その結果として荒廃が進み今に至っているのです。

ここ数年、何十年に一度と言われるような豪雨による大規模災害が頻発しています。今年も尊い命が犠牲となる甚大な洪水被害があったばかりです。道内においても洪水被害が続いて発生しており、身近な地域での災害を目の当たりにし、自然の恐ろしさを改めて感じさせられました。

このような中、森がもつ洪水や土砂崩れなどへの災害防備の役割について、ようやくですが注目され始めています。このことを、木への深い愛着がある者として、そして技術・家庭科教師OBとして、大変嬉しく思っているところです。

私たちは、豊かな森林に恵まれた北海道で生活を営んでいます。洪水災害への防備をはじめ多くの恵みをもたらす森と木の価値に、今こそ目を向けていくべきだと思ふのです。

- 7月6日 夏季拡大研究室会議
- 7月27日 研究室夏季集中研
- 7月28日 センター組合教育委員会
- 8月20日 センター組合協議会(中止)
- 8月27日 道研連研究発表大会(オンライン開催)
- 11月1日 センターだより第139号発行
- ※ 毎週火曜日 定例研究室会議
- ※ 随時 研修講座講師打合せ会議



本校は旭川市のGIGAスクール推進指定校を受け、昨年度一月からタブレット端末を活用した授業や行事等の実践を積み重ねてきています。試行錯誤の連続でしたが、推進委員会を中心に全教職員との知恵や工夫を積み重ね教育活動の質の向上に取り組んできました。ICT活用能力は、未来を生きる生徒達には必要な資質・能力です。今では、新しいスタイルの生徒総会が定着しています。(旭川市立神楽中学校)

1 書写指導 (実技) 6/7 (月)

西川 竜矢 (北海道教育大学 旭川校 准教授)
 蛭名 伸也 (永山南中 主幹教諭)
 講師 Ⅱ

・練習用紙に直接書き込むことで太さ曲がり等を生徒が実体験できる点や個人課題を事前に三つに絞り込むことなど非常に参考になりました。
 ・午後の講義や実技研修においても普段の子供達の困り感に即した内容をとたくさん教えていただき今後の授業にもぜひ活かしたいと思いました。



受講者の感想から

研修講座寸描



2 読書活動 6/9 (水)

佐藤 聖士 (緑新小 校長)
 仁村 さやか (末広北小 教諭)
 講師 Ⅱ

・三冊のおすすめの本の中から選んだ一冊を先生から送ってもらい動画を視聴する授業は、この先のコロナ禍で読書活動をどう進めていけばいいのか大変参考になりました。ありがとうございます。
 ・タブレット授業の実践例を見学できてよかったです。小学一年生でも使いこなしているので驚きました。

3 学校経営 I 6/10 (木)

高野 拓実 (上川教育局 義務教育指導監)
 石前 聖香 (日章小 校長)
 倉本 格克 (西御料地小 校長)
 大場 八仁 (鷹栖中 校長)
 佐藤 哲雄 (愛宕中 校長)
 講師 Ⅱ

・特に学校の経営者として、経営ビジョンを実現させるための方策について、今一度考えるよい機会になりました。四人の校長先生方のお話の中にもその具体となるものが散りばめられていて、コロナ禍で児童、職員が大変な毎日を送る中でもわくわくする体験が何かしらできる学校経営を心がけたいと思いました。



4 特別支援教育 7/13 (火)

青山理加子 (鷹栖中 教諭)
 矢吹佳奈子 (神楽小 教諭)
 宮崎 望 (北門中 教諭)
 講師 Ⅱ

・授業を三〜四のブロックで構成して集中力を切らせない中学校の取組や、一人一人の評価基準をもとにした小学校の児童への接し方が参考になりました。
 ・実践交流では進学や就職についての話題にもなりこれから勉強しなければならぬことも分かりました。ありがとうございました。

(3)

5 複式教育 7/6 (火)

市丸 隆則(永山東小 校長)
道塚扶由子(嵐山小 教諭)

講師

・子供達の主体的な学びを促すための導入での手立ての大切さや行ってみるといふ気持ちが高める働きかけなどとても勉強になりました。
・複式教育をまた一から学ぶ良い機会を頂きました。間接指導を有効にするための直接指導の大切さやその在り方について学び直したく思いました。



6 学校力向上対策 7/26 (月)

木下 俊吾 [北海道教育大学 教職大学院 特任教授]

講師

・講義では、これまで自分の中でぼんやりとしか押さえていなかった学校力の意味や、マネジメントの考え方について、とても分かりやすく教えていただき、大変勉強になりました。
・学校力向上の手立てとして「ゴールセッティング」と「包括的な改善」が必要であることが心に響きました。



7 幼保小連携教育 7/27 (火)

片桐 正敏 [北海道教育大学 旭川校 教授]

講師

・講座の中で、TASPについて知りました。医療機関にかからずとも、簡単に保育者、指導者が子どもをアセスメントできる、とてもよいものだと思います。
・特別支援対象児関係など、その子の成長、発達段階での困り感を見出して、小さなことでも引き継ぐことの大切さを感じました。



8 道徳科指導 7/29(木)

水上 丈実 [北海道教育大学 教職大学院 教授]
加藤 紘也 (旭川第3小 教諭)
今村 恭子 (緑が丘中 教諭)

講師

・水上先生のお話では、問題解決的な学習するための授業展開や発問の工夫について知ることができ、今後の授業で実践していきたいと思いました。
・他校の先生方と普段の授業づくりの悩みなどについて交流でき、助言をいただくことができてよかったです。



9 国語科指導 7/30 (金)

渥美 伸彦 (北海道教育大学 准教授)
 川島 一毅 (緑新小 教諭)
 永森 篤 (中央中 教諭)

講師

・「できる子への個別最適化」の難しさ、国語を何のために学ぶのか実感させることの必要性について考えることができました。
 ・ICTの活用や既習と未習のリンクについて、実例を交えてお話しいただいたこと、国語科での悩みについて、学校種を問わずお話し合えたことが良い研修になりました。



10 学校事務実務 8/2 (月)

石崎 幸男 (北海道教育庁教育局 教職員事務課 主査)
 岡田 航大 (北海道教育庁教育局 教職員事務課 主事)
 岸田 宗子 (旭川第3小 事務職員)
 坂田 淳哉 (東神楽中 事務職員)

講師

・旭川市や上川の現状の取り組みをそれぞれ聞くことができたので、今後参考にしながら業務を行っていきたいです。ありがとうございました。
 ・とても有意義なグループワークでした。それぞれの疑問を話し合える場として機能していて、見聞を広めることができました。



11 算数・数学科指導 8/4 (水)

谷地元直樹 (北海道教育大学 准教授)
 金川 一代 (近文小 教諭)
 大沼亜紀子 (東明中 教諭)

講師

・午前中の講義では、「問い」を軸とした単元構成の大切さが特に勉強になりました。適用問題の中に次の内容を設定する方法を自校でも取り入れてみたいです。
 ・他校種の先生方と数学の内容等について、意見を交流することで、改めて系統性を意識して授業づくりを行う必要があることが確認できました。



12 外国語(英語)指導 8/5 (木)

笠原 究 (北海道教育大学 旭川校 教授)
 布施 朋子 (愛宕東小 教諭)
 片山 泉 (東陽中 教諭)

講師

・思考力、判断力、表現力の評価に関しては、漠然としていて実践に困っていましたが、いろいろ先生方の実践例や笠原先生の講話を聞いて、明日から取り組めると思いました。
 ・学校や経験の違う先生方とたくさん交流でき、自分の評価への不安や悩みを明確にし、解決の糸口を見つけることができました。



13 社会科指導 8/6(金)

講師II

坂井 誠亮 旭川校 教授
 岡 義章 北海道教育大学 教授
 仲倉 昇吾 (神居中) 教諭

・評価の妥当性や信頼性を高めるためにモデレーションすることの大切さについて学び、実感することができました。
 ・「主体的に取り組む態度」の評価について、校内研修等で評価方法、視点についてお話がありましたが、本講座では、さらに深い内容を知ることができ、とても参考・勉強になりました。



14 理科指導 8/17 (火)

講師II

佐藤 由佳 上川教育局 主任指導主事
 藤橋 真臣 永山南小 教諭
 北原 康弘 広陵中 教諭

・見方・考え方の働かせ方を教えるのではなく、子ども達から出てきたときに価値づけることが大切。そのためにも、教師が事前に働かせたい見方を把握しておかなければならないと痛感しました。
 ・導入の重要性、単元全体を見通した授業づくりを進めていくことが大切だと分かりました。



15 生徒指導・教育相談 8/18 (水)

講師II

上原 大岳 六合中 校長

・自己肯定感、自己有用感だけではいけないことは分かっていたものの、見取りの視点や指導の考えの不明瞭さが改善できました。ありがとうございました。
 ・アンテナをはるのではなくソナーを発信し、早期対応、早期発見、組織的対応を目指して日々教育活動を行っていきたいと感じました。



コロナウイルス
 蔓延防止のための
 講座中止について

各研修講座では、マスクの着用や換気、三密を避ける等、新型コロナウイルス感染症対策に十分留意して本講座を運営してまいりましたが、緊急事態宣言の発令により、八月三十一日から十月十四日までの当研修センターの講座を中止といたしました。また、「特別支援教育」は二日日程から一日日程に変更いたしました。講座の様子は当研修センター内の掲示板やWebページにも掲載しておりますので是非御覧ください。
 これからも皆様の受講をお待ちしております。

出前講座寸描

西神楽中「タブレットPCの活用」 5/13 (木)



【講師：山口 徹也(東明中 教諭)】
iPad を授業で活用する具体的な使用方法を紹介していただき、実際に iPad を使用しながら体験することで、理解を深めることができました。授業にも積極的に取り入れたいと思います。御指導ありがとうございました。
(旭川市立西神楽中学校 今野 絃哉)

近文第1小「タブレットPCの活用」 5/13 (木)



【講師：佐々木 玲(北光小 主幹教諭)】
講義では、児童に身に付けさせたい情報活用能力についてわかりやすい説明があり、授業を行う際に意識したいと思いました。また、実技研修は実際の指導場面を想定されたもので、楽しみながら研修ができました。
(旭川市立近文第1小学校 本田 達也)

神楽中「タブレットPCの活用」 6/3 (木)



【講師：吉野 法行(東川中 教諭)】
今回の研修では、「ロイロノート」を用いた教育活動の在り方について教えていただきました。多種多様な活用方法を学ぶ中で、ICT機器活用の可能性を再認識し、自分の考えが大きく広がりました。今後も、生徒がより円滑に、対話的で深い学びに向かえる環境を整えるため、研修を深めたいと感じました。ご指導ありがとうございました。
(旭川市立神楽中学校 橋山 涼太)

永山西小「タブレットPCの活用」 5/17 (月)



【講師：石本 周司(永北小 教諭)】
講義の中で、ICTの具体的な活用法や、効果的な使い方を教えていただきありがとうございます。紹介していただいた指導法は、今後の授業の中にどんどん取り入れていきたいと思えます。御指導ありがとうございました。
(旭川市立永山西小学校 片原 顕光)

東川第二小「情報教育における今日的な課題と方策」 6/16 (水)



【講師：吉野 法行(東川中 教諭)】
タブレット端末の実践例や活用方法だけでなく、日々使ってみての疑問・困っていることについても丁寧に教えていただき、大変勉強になりました。学びを実践に生かし、より効果的な活用法を見つけていきたいと思えます。ありがとうございます。
(東川町立東川第二小学校 仁瓶 香織)

愛宕中「タブレットPCの活用」 6/15 (火)



【講師：伊藤 健治(永山中 教諭)】
講座の中で、教科指導、学級指導、教職員間の情報共有など様々な活用事例を教えてくださいいただき、具体的なイメージをもつことができました。日常的にICTを活用しながら、授業改善に努めようと思います。ご指導ありがとうございました。
(旭川市立愛宕中学校 中川 美穂)

旭中小「タブレットPCの授業活用」 6/23 (水)



【講師：志田 智迪(上富良野中 教諭)】
今回の講座で、今後の授業で活用できそうな便利な機能を紹介していただき、大変助かりました。また、具体的な活用場面もたくさん紹介していただいたので、これから使っていきたいと思えます。御指導ありがとうございました。
(中富良野町立旭中小学校 越田美智子)

布礼別小「タブレットPCの活用」 6/16 (水)



【講師：村純一(上川教育研修センターICT指導員)】
日々進化し、目覚ましく発展しているICT分野。毎日手探りの状況で向き合っていますが、この度の研修で、他校の実践情報を知ることができ、大変参考になりました。早速使える内容も多く、活用させていただきたいと思えます。
(富良野市立布礼別小学校 渡部 美穂)

心に残る授業

その84



上川教育局

佐藤 鮎美

急激に変化する時代を生き抜く子ども達に必要な資質・能力を育成するため、各学校においては、全ての子ども達の可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。

例えば、「個別最適な学び」を実現するには、ICTの活用による指導の個別化、学習の個性化を図ること、「協働的な学び」を実現するには、リアルな体験を通じて子ども同士が学び合うことが考えられます。

私が参観した心に残る授業は、子ども達が、よりよい生活の実現に向けて、具体的な実践を通して課題の解決を目指した、中学校第二学年家庭科の授業です。

「消費生活・環境」の内容で、家族で使用する「冷蔵庫」を購入することを

想定し、「目的に合った商品を選択するには、何を視点に選ぶとよいか。」という学習課題を解決する授業でした。

子ども達は、教科担任がICT端末から送信した、各社のカタログを基に、グループ内であらかじめ家族の役割を決め、それぞれの立場になりきって考えていました。話し合いでは、母親役が「買物を週一回にしたいので、今より大きな冷蔵庫がいい」、長男役が「学校で学んだ待機電力の視点で選びたい」等、各立場から意見を出し合い、ロイロノートの「シンキングツール」で意見を可視化し、まとめていました。

その後、大型画面に映し出された考案に対して教科担任が「問い返し」をしながら考えさせたことにより、商品購入に必要な「価格」「品質」「安全性」「機能」の四つ視点に気付くことができました。

子ども達が、自立した消費者としての意識を高めることができるよう、様々な工夫がされていた授業に私は、大変感銘を受けました。

このように、子ども達が主体的に自分の考えを表現・共有し、互いを認め合う授業が各学校において一層推進されることを期待しています。

ICT実技研修講座レポート

GIGAスクール構想により一人一台のタブレット端末が配備され、半年ほどが過ぎました。先生方におかれましては、タブレット端末を有効に活用し、資質・能力の確実な育成をめざして、様々な挑戦や努力をされていることと思います。

当センターでは、ICTを活用した校務の効率化やよりよい授業を目指したタブレットの活用のため、エクセルに関する3講座、タブレットPCに関する3講座、プログラミング教育に関する1講座の7つの講座を開設しています（各講座2回ずつ計14回実施、全講座半日日程での実施）。今年度は、急激な情報化社会の変化についての理解を深めるため、旭川市にオープンしたICTパークを利用した講座を実施しました。

エクセルに関する講座は、「初級編」「中級編」「活用・個別課題解決編」の3講座を開設しています。初級・中級編では、初歩的な数式や関数の使い方から、VLOOKUP関数等の応用的な使い方、簡単な会計簿の作成等の内容となっています。また、活用・個別課題解決編では、実際に校務で活用しているファイルを持参していただき、利用している上での疑問や課題をその場で講師が指導する内容となっています。

タブレットPCに関する講座は、「入門編」「活用編」「ICTを活用した働き方改革」の3講座を開設しています。「入門編」「活用編」では、基本的な操作方法から授業における活用方法についての内容となっています。「ICTを活用した働き方改革」では、クラウドサービスやアプリを活用した校務の効率化や、セキュリティやモラル等コンプライアンスにも関わる内容となっています。いずれの講座とも高い人気となっています。タブレットPCの有効活用が期待されておりますので、是非御活用ください。

プログラミング教育に関する講座では、小学校プログラミング教育について、目的などの理論研修やScratchやmicro:bitのプログラミング演習となっています。今年度は「ICTパーク」を会場とし、eスポーツ体験や施設見学も行い、児童生徒を取り巻く情報化社会について理解を深めました。

当センターの講座に参加され、研修を深めていただくとともに、同じ課題をもつ先生方との交流も可能な限りしていただければと考えています。是非御活用ください。

第18次研究2年次

資質と能力を育む指導と評価の一体化を目指して

研究主題「深い学びを実現する学習指導の在り方」の解明に向け、センター所員が研究授業を行いました。

研究員2年目 東明中学校 久保田 竜平

中学校第1学年 外国語科「Unit3 Club Activities」「Unit4 Friends in New Zealand」

【指導計画】

- ① 内容のまとまり【話すこと〔発表〕】を基に、3課と4課を複合的に捉え、指導計画を立案しました。
- ② 各単元の終末にミニパフォーマンステスト、二つの単元が終了した後に行うパフォーマンステストを配置しました。また、それに伴い、生徒に学習の見通しをもたせました。

【評価計画】

- ① 教科の特性に配慮し、「記録に残す評価」を適切に設定し、**目的に応じた無理のない評価**ができるように評価計画を作成しました。また、「指導に生かす評価」は、個に応じた指導や授業改善に生かすためのものです。そのため、**基本的に全時間で行うもの**とおさえます。
- ② 主体的に学習に取り組む態度は、「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面」と「粘り強い取組を行う中で、**自らの学習を調整しようとする側面**」という二つの側面から評価します。
- ③ 特に「自らの学習を調整しようとする側面」を評価するため、単元の見通しをもち、生徒自身が学習状況を把握しやすくするために**振り返りシートを工夫**しました。

5 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の指導計画と評価計画における18次研究との関わり

研究内容(3) 指導計画・評価計画

主体的に学習に取り組む態度における評価時期と評価材料

<指導計画>

0課、1課、2課を「話すこと〔発表〕」を指導する内容のまとまりとして捉え、自己紹介や自分自身の情報などを発信できることを目指し指導を行った。

3課は、日常的な話題について疑問詞を用いて相手や自分の情報をやり取りさせる単元である。4課でも同様に疑問詞を用いたやり取りが中心となる。そのため、3課と4課の二つの単元を通して、「外国語科の「内容のまとまり」である「話すこと〔やり取り〕、つづいて「書くこと」を、即ち「書くこと」が育む指導計画とした。

<評価計画>

評価計画としては、各単元の終末にミニパフォーマンステストを行い、その様子を見取り、指導に生かしていく。最終的に二つの単元が終了した後に、ALTとやり取りのパフォーマンステストを行い、生徒の変容した姿を記録に残す。

<主体的に学習に取り組む態度における評価時期>

指導主	ALTとALTとのやり取り
3課	ALTとのパフォーマンステストの結果
4課	ALTとのパフォーマンステストの結果
振り返り	ALTとのやり取り

【記録に残す評価】

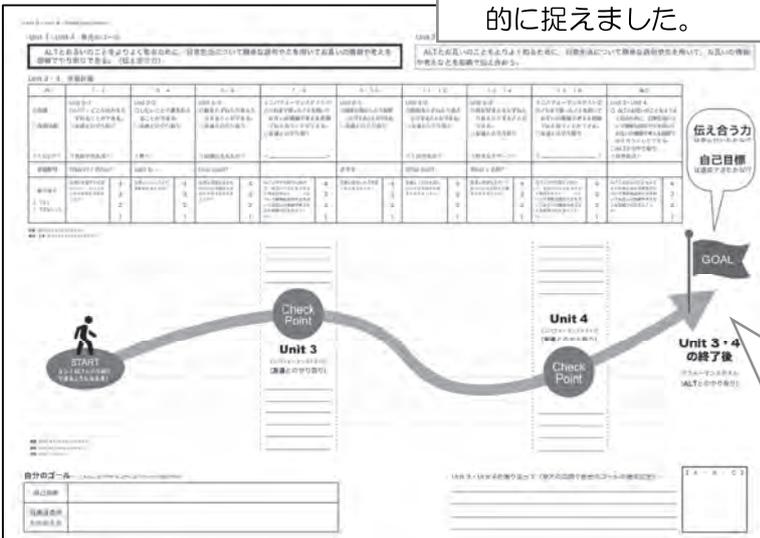
	3課	4課	話すこと〔やり取り〕
知			○
技			○
情			○
意			○

「指導計画」

- 内容のまとまりを基に、二つの単元を複合的に捉えました。

「パフォーマンステスト」「記録に残す評価」

- 外国語科の特性を考慮し、各単元の学習後にミニパフォーマンステスト、二つの単元が終了した後にパフォーマンステストを設定しました。
- パフォーマンステストのみを「記録に残す評価」と位置付けました。



評価方法及び指導上の留意点	知・技	意・情・意	主
1. 単元「3課・4課」の目標を再確認する。			
2. Unit4-① 相手に指示したり助言したりしよう			
3. Unit4-② 疑問をたずねたり答えたりしよう			
4. Unit4-③ 何が好きかたずねたり答えたりしよう			
5. Unit4 ミニパフォーマンステスト①			
6. ALTとのやり取りに向けて、お互いのことをよりよく知るために、好きなものについて、簡単な語句や文を用いて情報を即座で伝え合っている。			
7. Unit3・Unit4 パフォーマンステスト			
8. ALTとお互いのことをよりよく知るために、日常生活において、簡単な語句や文を用いて情報を即座で伝え合っている。			

「主体的に学習に取り組む態度の評価」

- 生徒が学習の見通しをもち、自身の学習状況を把握できるように、振り返りシートを工夫しました。

6月29日に行われました、英語の研究授業の様子です。



上川教育研修センター

教育講演会

と き

1月12日(水) 14:15~16:15

(開場 13:45 講演開始 14:30)

ところ

配信：上川教育研修センター(講堂)

研修センターとオンラインのハイブリッド型研修

演 題

「授業を変える学習評価
～資質・能力の育成を目指して～」

講 師

北海道教育大学旭川校 学校臨床准教授 兼 教育学部准教授

山中 謙 司 氏



【講師紹介】

- ・北海道教育大学旭川校 学校臨床准教授 兼 教育学部准教授 (平成30年4月より現職)
- ・令和元年度 文部科学省国立教育政策研究所 評価規準, 評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者

【主な著書】

- ・明治図書 アクティブ・ラーニングを位置づけた小学校理科の授業プラン (編著)
- ・東洋館出版社 イラスト図解ですっきりわかる理科 (共著)
- ・東洋館出版社 板書で見る全単元・全時間の授業のすべて 小学校6年理科 (編著)

教育界には課題が山積しております。ぜひ「教育講演会」に御参加いただき、お一人お一人が抱える課題の解決に努めていただければと考えております。多数の皆様の御参加をお待ちしております。

右のQRコードを読み込んでいただくことにより、Google フォームによるお申込みを受け付けていますので、ぜひご活用ください。



iPad
無料貸出しの
御案内

現在、上川教育研修センターには、計十五台のiPadがあります。また、研修センターは館内無線LAN環境が整っており、無料で数十台のPC等が接続できるアクセスポイントを設置しております。

当センターを利用した各種講座や各研究団体研修会等において、タブレットPCを用いた内容で実施してみたいかがでしょうか。積極的に御活用ください。また、各学校や各種研究大会などに無料でiPadを貸出いたします。校内研修での利用や研究授業などに御利用いただければと思います。なお、ICT実技研修講座での利用予定がある場合や、出前講座、一般講座等での活用予定がある場合は貸出しできませんので、御了承ください。

※貸出しにつきましては、事前に電話にて御連絡ください。
※破損や紛失の場合は弁済していただくことになります。



各種資料の御活用を！

当研修センターの1階には、各種教育雑誌を、3階には、道内はもちろん全国各地の教育関係広報紙や研究紀要、教育雑誌のバックナンバーなどを保管しています。蔵書資料は貸出しも行っていますので、ぜひ御活用ください。なお、所蔵資料リストは当センターWebサイトからも御覧いただけます。



上川教育研修センターWebサイト紹介&受講後調査のお願い

<http://kami-cen.hs.plala.or.jp/>

当研修センターでは、研修内容を勤務先において活用していただくことを願い、一定期間をおいてアンケート調査（受講後調査）をお願いしています。アンケート結果は、講座の成果を推し測るための貴重な資料として活用しております。趣旨を御理解の上、御協力いただきますよう、よろしく御願いいたします。

なお、受講後調査の御回答に当たっては、当研修センター **Web サイト上**で入力してください。

発行日 令和三年十一月一日
発行 上川教育研修センター
〒077-0100 旭川市六条通四丁目
電話(0166)242501
福家尚
印刷所 谷川印刷株式会社

※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。



QRコードを読み取ると、アンケート入力ページに移動します。